

# ピースツーリズム推進懇談会（平成30年度第3回）

平成30年（2018年）10月29日

## 目次

1 ルート周遊体験調査の実施状況について	
(1) 外国人によるルート検証の実施状況	3
(2) 学生によるルート検証の実施状況	5
2 スマートフォン向けコンテンツ制作状況	
(1) スマートフォン向けコンテンツの公開	6
(2) スマートフォン向けコンテンツの利用促進に向けたプロモーション	8
(3) 事業者や市民と連携した周遊促進の取組	8
3 リーフレット制作について	9
4 懇談会で提起された意見や提案への対応について	10
5 次回懇談会の日程	17

# 1 ルート周遊体験調査の実施状況について

## (1) 外国人によるルート検証の実施状況

参加者：広島在住の5名程度

- ・ベトナム出身、平成30年5月から広島在住（検証日：平成30年7月14日(土)）
  - ・メキシコ出身、平成30年8月から広島在住（検証日：平成30年9月3日(月)）
- （他に参加表明のあった方については調整中）

実施方法：来広して比較的、日が浅い広島在住の外国人に、スマートフォンのコンテンツを利用し、徒歩により「被爆建造物を巡るルート」と「資料館を巡るルート」を回ってもらって検証した。

項目	意見	対応
ルートについて	・原爆ドームのような海外でよく知られているスポット以外に、本川小学校や、慈仙寺の墓石がルートに入っているのがよい。	-
	・旅行者がどこを回ればよいか詳しく示されていて、とてもよい。	-
	・資料館巡りは一つのルート選定としてとてもよい。来訪者に歴史や平和運動について知らせてほしい。	-
	・来訪者が精神的・体力的にきつくならないように配慮して、ルートが設定されているとよい。	-
	・旧島病院(爆心地)は、平和記念公園に近いので、ルートに入れるとよい。	被爆建造物ではないため、ルート上ではなく関連訪問先として、コンテンツ内に旧島病院の情報を掲載している。
	・被爆建造物を巡るルートについて、レストハウス周辺からスタートしたため、原爆ドーム、本川小学校を回ってから、またレストハウスに戻ってくることになった。効率よく回れるよう、スタート位置を分かりやすく示すとよい。	スタートする位置を表示した。

項目	意見	対応
現地での表示について	・レストハウスから旧日本銀行広島支店へ移動する際、スマートフォン上の案内だけでなく、途中で案内・誘導表示があると来訪者が安心できる。(グーグルマップを使ってレストハウスから旧日本銀行広島支店への道案内を検索すると、川沿いのルートが表示された。このルートはとてもよかった)	-
コンテンツについて	・慣れたら使いやすいが、グーグルマップによる道案内へ繋げる操作が少し難しい。	操作しやすいよう、地図上にある訪問場所のマークを押すとグーグルマップが表示できるように改めた。
	・本川小学校平和資料館は、来訪者が見逃しやすいスポットだが、スマートフォンに外観の写真が掲載されているのですぐに見つけることができた。	-
	・コンテンツ内の訪問場所の説明がとてもよかった。	-
	・コンテンツ内の情報は旅行者に分かりやすいものとなっている。被爆建造物の説明は詳しく、歴史が良く理解できた。	-

⇒概ね高評価であった。今後検証を予定している方の意見に加え、ピースツーリズムのSNSにおいて利用者が発信する声を把握し、コンテンツをより使いやすく、分かりやすくなるよう、随時メンテナンスを行いたい。

## 2 学生によるルート検証の実施状況

参加者：広島市観光政策部のインターンシップに参加した大学生(4名)及び高校生(2名)

実施日：平成30年8月7日（火）

実施方法：参加者に、スマートフォンのコンテンツを見てもらい、自転車により次のルートを回ってもらった上で、アンケートに回答してもらった。

ルート：（市役所）→広島大学旧理学部1号館→広島市郷土資料館→旧広島陸軍被服支廠→シダレヤナギ（鶴見橋東詰）

項目	意見	対応
ルートについて	・広島大学旧理学部1号館は、電車通り側から入ると奥の方にあるので、場所が分かりづらい。	北側から公園に入るようルートを表示した。
	・休憩場所、水分補給ができる場所があるとよい。	休憩場所等の情報を今後追加していく。
走行環境について	・郷土資料館から旧広島陸軍被服支廠へ移動する際、細い道が多くて複雑で、道路状況も悪く、危ないと感じた。 ・しまなみ海道のようなサイクリングロードを作るとよい。	安全に回れるよう民間事業者等との連携を検討する。
施設について	・旧広島陸軍被服支廠は外観しか見ることが出来ないのも、もっと多くの説明表示があるとよい。 ・シダレヤナギの説明表示が小さく読みづらい。 ・広島大学旧理学部1号館と旧広島陸軍被服支廠に、これが被爆建物だと分かる目立つ看板があるとよい。	説明表示等の充実は、現在検討している。
コンテンツについて	・目的地へ行くために目印となる建物等の写真が表示されるとよい。 ・情報を整理して掲載されており、分かりやすい。 ・英語以外の言語もあるとよい。	今後検討する。
その他	・全部回ると観光地のサービス券がもらえるなどのキャンペーンがあれば、集客につながるのではないか。 ・路面電車によるルートもあるとよい。	拡張の方法として今後検討する。

## 2 スマートフォン向けコンテンツ制作状況

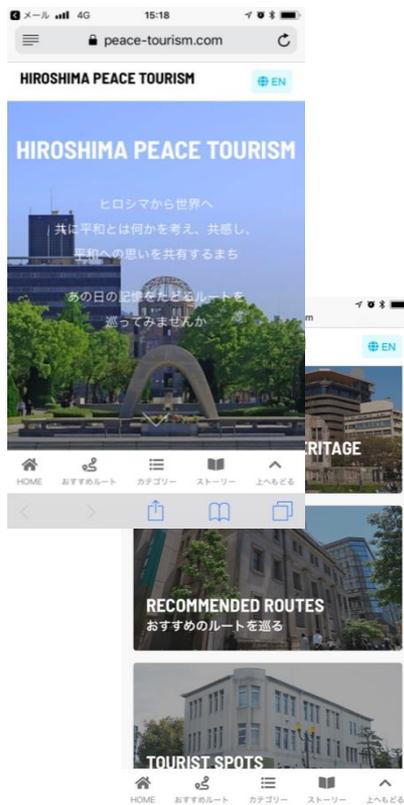
### (1) スマートフォン向けコンテンツの公開

公開日：10月29日（月）

URL：（日本語） <https://peace-tourism.com/top.html>

（英語） <https://peace-tourism.com/en/top.html>

(トップページ)



(ルート選択)



(ルート概要)



(施設等説明)



(カテゴリ選択)



(カテゴリ別施設等一覧)



(施設等説明)



(ストーリー)



(写真)



(AR案内)



(マーカース取り)



(映像)



## (2) スマートフォン向けコンテンツの利用促進に向けたプロモーション

〈プロモーション案〉

項目	内容		
チラシの作成・配架	QRコードを記載したチラシを作成し、以下の場所・機会等において配布する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内所での配架</li> <li>・イベントでの配布</li> <li>・旅行会社へのPR</li> <li>・平和関連施設、宿泊施設等への配架協力依頼</li> <li>・学校への修学旅行誘致訪問時のPR</li> </ul>		
ウェブによる発信	広島広域観光情報サイト“ひろたび”や、広島県観光ホームページ等への掲載		
紙媒体による発信	・市民と市政	・修学旅行誘致ガイドブック	・修学旅行生向け街歩きマップ
事業者への発信	・宿泊関係者への情報発信	・商談会等の機会を利用した旅行会社等へのPR	

## (3) 事業者や市民と連携した周遊促進の取組

コンテンツ内に掲載している施設で提供するサービスなど、ピースツーリズムに賛同して事業者や市民が行う取組をコンテンツに掲載し、周遊促進を図る。

(例) ひろしま美術館でのピースツーリズムコンテンツ利用者への特典付与

### 3 リーフレット制作について

スマートフォン以外の手段で周遊できるよう、リーフレットを制作し、ウェブサイトからもダウンロードできるようにする。

#### 【言語】

日本語、英語

#### 【内容案】

- ・市内中心部地図（徒歩ルート、めいぷる～ぷルート）
- ・広域地図（ピーすくるルート）
- ・主な施設の詳細情報・写真  
（その他の施設等の情報は、地図上に簡単な説明を記載）
- ・めいぷる～ぷ及びピーすくるの利用方法

#### 《参考例》

長崎さるくマップ

## 4 懇談会で提起された意見や提案への対応について

「今後留意すべき事項」の項目ごとに整理した内容は以下のとおり。

### 1 平和と文化の一体的な推進によるヒロシマの発信

- (1) 平和事業においては、文化事業も取り込んで幅広く推進する。
- (2) 現代美術やアニメーションフェスティバルに設けるヒロシマ賞への市民の関心を高めるとともに、国内外からより多くの来訪者を迎える事業を推進する。また、現代美術館においては、市の施設としての市民の関心をさらに深める事業を推進する。
- (3) 平和記念資料館や現代美術館を始めとした市の施設は、平和と文化事業の発信機能を強化し、あわせて関連事業の共同実施を行う。
- (4) 事業の推進にあたっては、一過性のイベントに終わらせることなく、次世代につなげる事業を推進する。

### 【対応の方向性】

- ・本市の「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略において、「“平和への思いを共有するまち”の実現」を施策の一つに掲げ、文化事業も取り込み、被爆の実相を「守り、広め、伝える」事業を推進することとしている。
- ・平和記念資料館、現代美術館、広島城の共通入場券を導入するなど、平和事業と文化事業を一過性のものとして終わらせないようネットワーク化を進める。

### 〈関連する主な意見・提案への対応〉

意見	対応
<b>【来訪者への情報発信】</b> ヒロシマを発信源とするアート作品をたくさん作ってもらう仕掛けづくりを行うなど、その作品を通じた広島を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代美術館については、平成29年3月に策定した比治山公園「平和の丘」基本計画に基づき、国内外から多くの来訪者が集まる「にぎわいの場」として集客の核となるよう再整備を行うこととしており、新設する多目的スペースにおいて、作品展示のほか、作家が作品を制作している過程を見せる企画等を実施することとしている。（平成30年度は再整備に係る基本設計を実施）</li> <li>・ 旧日本銀行広島支店を市民の芸術・文化の発表の場として無料（光熱水費のみ実費徴収）で貸し出しており、美術や音楽を通じた平和発信に広く活用されている。（平成29年度利用実績46件）</li> </ul>

意見	対応
<p><b>【来訪者への情報発信】</b> 現在の平和事業に、現代美術のヒロシマ賞やアニメーションフェスティバル（ヒロシマ賞）など文化の事業を合わせた広島メッセージを発信する。</p>	<p><b>【現代美術ヒロシマ賞】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受賞作家には、受賞記念展に出展してもらう作品を新たに制作してもらうこととしており、広島から発信するメッセージが込められた作品となっている。</li> <li>受賞作家から作品数点を譲り受け、コレクション展などで展示することにより、ヒロシマ賞及びヒロシマ賞受賞作家のPRに努めている。</li> <li>ヒロシマ賞受賞記念展を現代美術館以外でも鑑賞できるよう、他館との連携による巡回展を行う方向で調整している。</li> <li>ヒロシマ賞受賞記念展をより多くの市民や国内外からの観光客等に観覧していただけるよう、平和大通りへのバナー掲示やホテル等へのチラシの配架など、積極的な広報活動を行っている。</li> <li>現代美術館では、ヒロシマ賞受賞記念展以外にも、現代美術を通してヒロシマの心を世界に発信するための企画展示等を数多く開催している。</li> </ul> <p><b>【広島国際アニメーションフェスティバル】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「愛と平和」を希求する祭典である広島国際アニメーションフェスティバルに、より多くの市民や国内外からの観光客等に参加いただけるよう、バナー掲示やバス・電車の車内吊り等による広報のほか、100日前イベント、本通りパレードや前夜祭の開催など市民等が気軽に参加できるイベント等を通じて積極的なPRを行っている。</li> <li>日英表記のフェスティバルのホームページや文化庁が運用するホームページなどを通じて、国内外に発信している。</li> <li>フェスティバルでは、世界各国・地域から応募された作品のうち、一次選考を通過した作品を公開審査し、グランプリとともにフェスティバルの精神である「愛と平和」に最もふさわしいと思われる作品に対して贈られるヒロシマ賞など、各賞を選定し、表彰式後に受賞作品を上映している。また、平和を希求する優秀作品を上映するプログラム「平和のためのアニメーション特集」を実施している。</li> <li>「平和」や「広島」をテーマにしたアニメーション制作を行う中学校等に、機材貸与や指導助言等の支援を行うとともに、完成した作品の発表会を8月6日に国際会議場で開催している。この作品については、市のホームページで発信している。</li> </ul>
<p><b>【配慮・対応が必要な事項】</b> 文化・芸術により平和を希求するなど、文化事業を通して平和へのメッセージを受発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度から全庁的に「音楽のあふれるまちづくり」に取り組んでおり、その取組の柱の一つとして「音楽による平和発信・国際交流」を掲げ、平和のタペコンサート等の音楽イベントや姉妹都市との文化芸術交流を行っている。また、音楽以外の分野でも、広島国際アニメーションフェスティバル、現代美術館ヒロシマ賞などの取組を行っている。</li> </ul>
<p><b>【配慮・対応が必要な事項】</b> 現代美術館の発信力を高める。また、現代美術に特化した事業だけではなく、市の施設として、多くの市民に関心を持たれるような事業も企画していくなど、平和と文化・芸術事業のあり方を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代美術館については、平成29年3月に策定した比治山公園「平和の丘」基本計画に基づき、国内外から多くの来訪者が集まる「にぎわいの場」として集客の核となるよう再整備を行うこととしており、新設する多目的スペースにおいて、作品展示のほか、作家が作品を制作している過程を見せる企画等を実施することとしている。また、多目的スペースはユニークベニューやアフターコンベンションの会場としても利用できるようにし、美術館の活用範囲を広げることとしている。（平成30年度は再整備に係る基本設計を実施）</li> <li>現代美術館の夜の魅力を向上させるためにライトアップ設備を設置するとともに、屋外展示場にイベント用設備を設け、野外イベント等を開催することとしている。（平成30年度は再整備に係る基本設計を実施）</li> </ul>

## 2 平和記念資料館と関連する施設、被爆遺構などの発信力の強化

- (1) 平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に加え、被爆の実相についてより知識を深めるため、関連施設を一体化した事業推進を図る。
- (2) 平和記念公園から出土する被爆前の街並みなどの地下遺構を保存管理、公開する事業を推進し、館内展示と一体化させる。
- (3) 市内にある被爆建造物の保存を積極的に推進する。
- (4) 本館休館中の被爆展示のあり方について、来館者の意見などを含め、理解しやすい展示に努めることで、発信力を強める。
- (5) 被爆者の悲慘な体験を風化させることなく、次世代に伝える事業を推進する。
- (6) 市が推進してきた主要な平和事業などの過程についても展示し、周知を図る。

### 【対応の方向性】

・発信力の強化について、関係部局で協議、連携を行い、充実を図る。

### 〈関連する主な意見・提案への対応〉

意見	対応
<b>【来訪者への情報発信】</b> そこに行けば伝えたい内容が理解できるような説明板を設置する。	施設等の説明板について、6月及び7月に現況調査を実施した。調査結果に基づき、改善が必要な箇所について、今後各施設等の所管課と対応を検討する。
<b>【来訪者を迎えるにあたっての環境づくり】</b> 広島大学旧理学部1号館は草木が伸びたり、建物はガラスが壊れていて廃墟のようになっている。維持管理を徹底するとともに、早急に整備方針を決定する。	<b>【維持管理】</b> 敷地の除草を年3回（6月、8月及び10月）実施している。また、安全上緊急を要する破損窓ガラスについてはこれまでも対策を講じており、今後も、状況を確認しながら安全対策を講じていくこととしている。 <b>【保存・活用の具体化に向けた検討】</b> 平成28年度に、有識者や関係団体等から幅広く意見を聴くため、「広島大学旧理学部1号館の保存・活用に関する懇談会」を開催し、「広島大学旧理学部1号館の保存・活用の方針」を策定した。 平成29年度からは、この保存・活用の方針の具体化に向けた検討を進めるため、平成30年2月に「平和に係る教育・研究の導入機能等に関する検討会」を開催し、導入機能等の検討を進めている。
<b>【配慮・対応が必要な事項】</b> 被爆の実相の情報発信のあり方やピースツーリズムとの連携について議論する。（例示：平和記念資料館、袋町小学校、本川小学校、旧日本銀行広島支店の展示、解説方法など）	今後のピースツーリズムの展開について議論し、それを踏まえた対応を検討する。

## 3 市民・民間等との協働体制の構築

- (1)市民がどのようにすれば参画できるのか、分かりやすく提示する。
- (2)平和行政に関心を持っている市の職員の力を結集し、行政側からこの事業をサポートする体制を作る。
- (3)市民が自主的に行う平和活動を、平和文化センターなどがより一層バックアップする体制を作る。

### 【対応の方向性】

- ・ピースツーリズムについて、市民等に周知し、機運の醸成を図る。
- ・連携可能な団体等と意見交換を行い、コンテンツに盛り込む等の取組を行う。
- ・市民等の取組を、平和文化センター等によるバックアップのほか、ピースツーリズムのコンテンツ等を活用した情報発信により、促進する。

### 〈関連する主な意見・提案への対応〉

意 見	対 応
<b>【迎える市民の積極的な関与】</b> 温かくおもてなしをするような意思を持つ人の意思表示の仕組みを作る（バッジの作成など）。	広島県観光課が、県民一人ひとりが自ら実践する、観光客に対する「おもてなし」に関する取組を募集する「広島県「みんなde」おもてなし宣言」を実施しており、宣言者にはシンボルマークをデザインしたワッペン等を交付している（平成30年10月現在、26,912人が県に登録）ので、この仕組みを利用する。
<b>【迎える市民の積極的な関与】</b> 本事業の市民への周知を促進する（広報紙による広報、説明会実施、市民と一緒にルートを歩く企画の実施など）。	1月に「市民と市政」において、ピースツーリズムの主旨や事業内容を知らせる記事を掲載する。
<b>【迎える市民の積極的な関与】</b> ピースツーリズムを持続可能なものとするため、一人一人が行動するための最低限の知識や経験を授け行動基盤を養う場を作る。	被爆体験証言者、被爆体験伝承者、ピースボランティアなどの取組や中・高校生ピースクラブ、ピースフォーラム、被爆建物・樹木めぐり、平和学習講座などの啓発活動を通して意識醸成を図っている。
<b>【配慮・対応が必要な事項】</b> 市全体で取り組む事業として横断的な連携を図れるよう、市職員一人一人の意識付けを図る。	懇談会のとりまとめの内容は、全庁に情報提供している。今後、関連部局との意見交換や調整のほか、取組内容などのトピックスを全庁に提供する。

## 4 拠点施設の確保など

- (1) 来訪者が各施設などを訪問する前にブリーフィングできる場所や機会を設ける。
- (2) 拠点施設などにおける来訪者の滞在時間の延長を図るため、ヒロシマの芸術・文化に触れる事業などを推進する。

### 【対応の方向性】

- ・観光案内所など、ルート周辺の市民と来訪者の接点となる施設と意見交換を行うなどして、拠点性を高める。
- ・まずはスマートフォン向けコンテンツを使用した個人による周遊促進を図るため、ピースツーリズムやそれに関する情報を、観光案内所などにおいて来訪者に知らせる。

## 〈関連する主な意見・提案への対応〉

意見	対応
<b>【来訪者への情報発信】</b> 付加情報を発信する（滞在時間の延長につなげるための、夕方以降の過ごし方の提供など）。	早朝や夜間における来訪者向けプログラムとピースツーリズムを組み合わせた効果的な発信方法を検討する。
<b>【来訪者を迎えるにあたっての環境づくり】</b> 平和記念公園周辺に、レストハウスのような施設が不足しているので、整備する。	現在改修中のレストハウスにおいて、休憩スペースの充実を予定している。(平成32年7月完成予定) 旧市民球場跡地においては、平成28年から仮設休憩所(10m×10m×2箇所)と仮設トイレ(洋式、男子・女子・多目的)を供用している。
<b>【来訪者を迎えるにあたっての環境づくり】</b> 観光案内所を目立つ場所に多く整備する。	交通結節点等の主要な場所での観光案内所の充実を進めているが、その他の箇所に数多く整備することは、ハード整備や案内体制の構築に多額の経費がかかり、直ちには困難である。市から提供するパンフレットラック等を使用して小売店、宿泊施設等の民間事業者が運営している街角案内所と連携し、観光案内を充実させる。
<b>【配慮・対応が必要な事項】</b> 観光施設、宿泊、交通等の事業者の方々からも来訪者に情報提供してもらう。	街角観光案内所や宿泊施設等に情報提供し、来訪者への情報発信を促進している。

## 5 今後の事業推進のための関係機関との調整・チェック機能の構築

(1)とりまとめた各事業の具体化にあたって、その進捗状況を把握し、今後も進化させていくため、関係機関と調整を図る機能を持つ組織を設け、その組織を核として、市民や事業者などと協働して、各自の役割を分担できる仕組みを構築していく。

### 【対応の方向性】

- ・当面は、観光政策部が中心となり、関係部局と連携しながら、ピースツーリズム推進に向けた環境整備を行う。
- ・将来的な組織体制などのあり方について、今後検討を行う。

## 〈関連する主な意見・提案への対応〉

意見	対応
<b>【配慮・対応が必要な事項】</b> 懇談会でとりまとめた意見・方策をどのように具現化していけるのか検証できる仕組みを作る。	・進捗状況を懇談会に報告することにより、意見交換を行う。

## 【前回の懇談会以降に提起された意見や提案】

〈来訪者を迎えるにあたっての環境づくりについて〉

- 平和記念公園の来訪者の安全確保のため、元安橋東詰めから本川橋東詰めまでの市道の車両通行を、土日だけでなく平日も禁止にする。
- 平和記念公園内に、雨天時に修学旅行生が昼食を食べられるスペースが充分にないため、他の場所へ誘導する。
- 平和記念公園周辺の路上に団体バスが並ばないよう、空いているバス駐車場に誘導する。

## 次回懇談会の日程

2月上旬頃に実施予定とし、

後日、事務局から日程調整を行う